

だくよう鉄屋さんに切にご期待申上げて筆をおく。

### 文 献

- 1) 日本原子力産会議「核分裂生成物等総合対策懇談会報告書」(1973年5月)
- 2) 品川, 西沢, 森田: 化学, 28, 1006 (1973)
- 3) 品川: 「エネルギー・スキャニングへの漸近」分析

- 化学 21, 104 (1972)
- 4) 品川: 蛋白質・核酸・酵素, 別冊, 生命の起源と進化, p. 28 (1972)
  - 5) A. SCHARMAN: エギゾ電子第3回国際会議, PTB-Mitteilungen 80, Nr. 5 (1970), Braunschweig, Germany (W).
  - 6) 品川, 江間, 加藤: 化学, 29, 3月号 (1974) 1973年の化学「放射化学」

### 「残された水溜もきれいに掃除して下さい！」

分析の研究方向はどちらにあるか？

その道を行んで居られる専門の方々には真剣にこのテーマにとり組まれ、着実に解決の道を見出されていると思います。

私達冶金反応の研究に従事している者が常に追求していることは、いろいろな相の成分変動であり、換言すると各相の化学分析値であります。いかに卓越した理論であつてもその実証が正確でなければそれは死んだ理論であり、空想の域を出ないことになります。

あるアイデアが生れ、それを実現するために研究計画を立案した段階で、分析の精度が低いとか分析に長時間を要するとかなどの理由によつてその研究を断念することはよくある例であります。これを裏返せば、分析の難しい研究は実現しないことを意味し、配合値が分析値の代替になるという笑話が生れることに関連いたします。

こうした観点から私達が要望したいことは、きわめて普通にある分析対象の正確で迅速な分析法の研究にも意を用いていただきたいということです。IMAによつてミクロ的な分析法を確立することも重要であり、学問的な興味も高いとは思いますが、しかし一方では、スラグの分析が困難であるためにこの分野の研究が非常におくれていることも事実であります。

こうした仕事は熱力学のデータの集積とか、状態図の確立と似たような仕事でありますが必要とする分野もきわめて多いのであります。

“残された水溜もきれいに掃除して下さい”

—金属材料技術研究所 郡司 好喜—